

尺八の音色の魅力と奥深さ  
現代のメロディーにも見事に調和する箏の音色  
日本の心を表情豊かに奏でるギター

伝統音楽という概念を越え  
西洋音楽の真似事でもない音楽  
それが「遠 TONE 音」です



# 遠 TONE 音

とおね

三塚 幸彦 (尺八)  
小野 美穂子 (箏)  
曾山 良一 (ギター)

9月14日 (土)

16:00 開演 (15:30 開場)

## 《演奏予定曲目》

- 会津の四季より「秋」
- 星のふる里 ○北飛行 ○十勝野
- 木枯らし ○木霊 ○ひまわり
- 雪の華 (中島美嘉) ○明日 (平原綾香)
- ふるさと ○赤とんぼ ほか

演奏曲目は変更となる場合もあります。

会場 / 会津若松市文化センター

自由席 一般 1,500円  
税込 大学生以下 500円

(当日は各200円増しです。)

チケット 6月15日(土)より販売開始

會津風雅堂 (窓口、電話、ホームページ)、アピタ会津若松店、アピオスペース、栄町オサダ

※電話でのお申し込みは會津風雅堂 (TEL.0242-27-0900) で6月15日(土)10:00から受付いたします。  
チケットは宅急便の代金引替でお送りいたします。(福島県内500円/1件)

お問い合わせ 【會津風雅堂】

公益財団法人会津若松文化振興財団  
TEL.0242-27-0900

主催 / 公益財団法人会津若松文化振興財団  
共催 / 会津若松市教育委員会  
後援 / 福島民報社 福島民友新聞社

# 遠TONE音

## とおね

心のふる里、  
北海道と共に

「遠TONE音」(とおね)は1988年に北海道で生まれ育った三塚幸彦(尺八)、小野美穂子(箏)、曾山良一(ギター)の3人により結成されました。グループ名の「遠音」は、「良い音は遠くまで澄んで聞こえる」という意味をもつ古くからの表現です。一方、TONEは英語の「音」。どちらもトーン・音に通ずる面白さからグループ名を「遠TONE音」にしました。そして、人真似でない、自分たちにしかできない音楽を追求し、行き着いたのが「自分たちが生まれ育った日本、生まれ故郷の北海道を音楽で語ること」でした。自分達のふる里、北海道を語ること、それは日本を語ることであり、聴く人たちの心のふる里を思い起こさせることだったのです。フルートでもリコーダーでもない尺八の音色の魅力と奥深さ。優しく語りかけ、現代のメロディーにも見事に調和する箏の音色。和楽器の可能性(魅力)を最大限に引き出し、日本の心を表情豊かに奏でるギター。遠TONE音のサウンドで、聴く人の心の中にも北海道の広大な大地を広げたい、そう願っております。邦楽器を使いながら、伝統音楽という概念を超え、決して西洋音楽の真似事でもない音楽、それが「遠TONE音」です。

### 三塚 幸彦 (尺八)

8月2日生まれ、獅子座、血液型O型、好きな色「青」

専修大学経営学部経営学科卒業。16歳の頃たまたま聴いた尺八の音色に感動、父の所有する尺八を隠れて吹いたのが尺八への第一歩。NHK邦楽オーディション三連続合格など邦楽の世界でしばらく活動していたが、パイプオルガンの酒井多賀志氏、ウードのハムザエルディン氏、和太鼓の林英哲氏等との競演を契機に自らの魂を揺さぶる音楽を模索しはじめる。



#### — 会津若松公演にあたって —

1995年福島県国体の一環として開催された福島国民文化祭において、会津若松市から音楽と舞踊、邦楽器と必要な洋楽器という条件による「悠」の音楽の委嘱を受け作曲したのが「会津の四季」でした。委嘱作品としては珍しく、何度かの再演の他にも他の地域でも再演などが繰り返され、特に私が現在住んでいる東京都狛江市では、幾度となく再演される定番曲となっており、今年は歌詞を狛江にちなんだ内容に変えて演奏することも計画しています。

委嘱を受けて以来、会津の邦楽関係の方々、洋楽関係者との交流が生まれ、私に録っては最も多く訪れる地域となっています。その会津若松の地で、私のグループ「遠TONE音」の公演が実現できること、本当に嬉しく感謝しています。

私の音楽の原点を是非お聞きいただきたいと願っています。

### 曾山 良一 (ギター)

12月20日生まれ、射手座、血液型B型、好きな色「黄色」

北海道総局鉄道学園卒業。在学中にバンドを結成、音楽を札幌交響楽団コントラバス奏者の信田尚三氏に師事しながら、作曲とライブハウスなどでの演奏をするうちに、北海道出身の歌手倉橋ルイ子のバックバンドとして東京に招聘され、6年間バックバンドのリーダーをつとめる。



そのバンドで活躍中にゲストとして出演した三塚、小野両氏と出会う。

### 小野 美穂子 (箏)

2月1日生まれ、水瓶座、血液型O型、好きな色「青」

山口芸術短期大学音楽科卒業。幼少の頃より祖母、母から箏を習うが、ピアノに興味を持ち大学ではピアノを専攻するも、最終的に自分の心に最も響いた楽器として「箏」を自分の楽器として選択した。いかなる場所においても自分の感情を忠実に再現する楽器を目指し、箏そのものの改良とエレクトリック化に力を注ぐ。



#### 《会津若松公演演奏予定曲目》

※演奏曲目は変更となる場合もあります。

○会津の四季より「秋」

from New Album

○木枯らし ○木霊 ○故郷

遠TONE音オリジナルより

○江差 (江差追分の幻想) ○星のふる里 ○道 ○北飛行 ○夏雨 ○十勝野

Special Melodies

○ひまわり (映画音楽) ○雪の華 (中島美嘉) ○明日 (平原綾香) ○ふるさと ○赤とんぼ